

世界のFMC動向シリーズ No.1 (英国)

～ BT Fusionの最近の動向～

🕒 記事のポイント

サマリー

IP化の流れの中、世界の通信事業者によるFMCサービスの導入が加速しているが、本稿では世界のFMC動向シリーズの第1回目として、FMCの先駆者、英国 British TelecomのFMCサービス「BT Fusion」の展開状況を紹介する。

「BT Fusion」が2005年6月にサービス開始されてから1年あまりが経過した。パイロットユーザーを対象とした当初の限定的な提供に続き2005年9月に営業活動が開始されたものの、その後しばらくはサービス展開状況に関する報道はあまり見受けられなかった。2006年に入って、1月に新型端末の投入、2月には新料金プランの導入と中小企業向けサービスの開始と相次いで進展が見られた。

BTは2006年内にWi-Fi/GSMのデュアルモード端末を投入し、2007年初めには大企業向けFMCサービスを開始する計画である。

主な登場者 BT

キーワード FMC モバイル ブロードバンド

地域 英国

執筆者 KDDI総研 制度・政策調査室 服部 まや (xma-hattori@kddi.com)

近年、世界の通信事業者がFMC (Fixed-Mobile Convergence : 固定通信と移動通信の融合) サービスの提供に向けて積極的に取り組んでいる。2004年8月に韓国 Korea Telecom (KT) がOnePhoneサービスを開始したのに続き、2005年6月には英国 British Telecom (BT) が「BT Fusion」を開始した。その他にも多数の事業者が相次いでFMCサービスの提供計画を発表している。

FMCサービス導入への流れが加速している背景には、FMCをサポートする技術の進化と通信事業者を取り巻く厳しい事業環境がある。携帯電話の普及に加え、ブロードバンドの普及によりIP電話が登場し、固定電話トラヒックは減少傾向にあり、固定電話事業者は新たな収入源を模索している。また飽和に近づいている携帯電話市場では競争がますます激化しており、移動通信事業者にとっても状況は厳しい。こうした市場環境で、通信事業者にとって新規市場の開拓や顧客の囲い込みが急務となっており、FMCがその戦略の一部として重要性を増してきている。

そこで本レポートではこれから1年間にわたり世界各国におけるFMCの動向を紹介していくこととし、今回はまずFMCの代表的事例とされる英国BTの「BT Fusion」を取り上げる。

1 FMCサービスの先駆者「BT Fusion」の展開状況

1 - 1 「BT Fusion」の概要

2005年6月15日に英国BTが「世界初のFMC型サービス("world first combined fixed and mobile phone service")」と銘打って開始した「BT Fusion」は世界中の注目を集めた。これは同社が2003年に「Bluephone」プロジェクトとして発表していたFMCサービスを「BT Fusion」のサービス名で実現したものである^①(脚注)。

BT Fusionは当初400人あまりを対象とした小規模なパイロットサービスとして開始された。並行して同社のウェブサイトを利用希望者の申し込みを受け付けたが、9月末時点で2万件を超える登録があったという。まず、これらの事前登録者を対象に9月末から営業活動が開始された。その後しばらくFusionサービスに関する報道は見受けられなかったが、2006年に入って、1月にFusion端末新型機種種の投入、2月には新料金プランの導入、またビジネス向けサービスの開始と相次いでサービス展開に関する報道発表が行われた。

同時に各種の加入促進キャンペーンを実施するなど、本格的なマーケティング活動を開始した結果、Fusionユーザー数は順調に増加し、2006年2月第1週には週間契約数が2千を突破、合計1万3千となった。その後も増加傾向が続き、2006年3月末時点のFusionユーザー数は約3万である^②(出典)。

BT Fusionは1台の端末を固定電話網と携帯電話網の両方で利用するOne Phone型サービスであり、BTでは「携帯電話の便利さと機能を、固定電話並みの低料金・高品質で利用できる」ことをメリットとして前面に打ち出している。



①(脚注)

サービス開始までの経緯については、KDDI総研R&A 2004年7月号「BT、FMC型サービス「Bluephone」に向けてVodafoneと提携」およびKDDI総研R&A 2005年8月号「BT、FMC型サービス「BT Fusion」を開始」を参照。

②(出典)

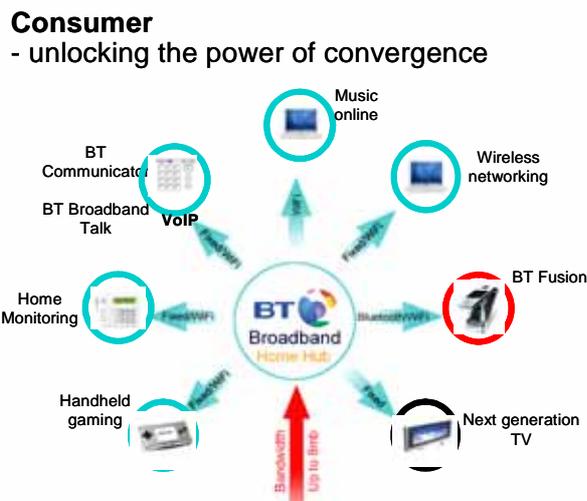
BTの報道発表資料("Third quarter and nine months results to December 31, 2005": 2006.2.9, "Preliminary results – Year to March 31, 2006": 2006.5.18)

BT Fusionを利用するには、専用アクセスポイントのBT Home Hub(以下、BT Hub)、BT Broadband (BT のADSLサービス; BT Hub 1台につき1回線)^{④(脚注1)}、「BT Fusion」対応の携帯電話端末(以下、Fusion端末)とSIMカードが必要である。

Fusion 端末は、外出先ではGSM携帯電話として機能し、BT Mobile^{⑤(脚注2)}のネットワークに接続される。家庭やオフィスからはBT Hubを介して自動的にBT Wireless Broadbandネットワークに接続され、固定電話として利用できる。UMA (Unlicensed Mobile Access) 技術により、ネットワークの自動切り替えと通話中のシームレスなハンドオーバーが可能となっている。

BT Hubのカバーエリアは半径約25m、BT Broadbandに接続されているときには端末のディスプレイ上に"BT Wireless Broadband"のアイコンが表示されるので、ユーザーはHubの圏内にいるかどうか確認できる。1台のBT Hubには6台までのFusion端末を登録することができ、同時に3台まで通話可能である。また自宅・オフィス以外の他のBT Hub経由の通話もそのBT HubにFusion端末を登録することにより可能となり、通話料金はFusion端末のアカウントに請求される。

【図表1】 住宅用ユーザーのコンバージェンスイメージ



(出所: BT 資料)



④(脚注1)

BTは2006年6月21日から、インターネット接続(8Mb ADSL)、IP電話、テレビ電話、公衆無線LAN("BT Openzone")等をパッケージ化した"BT Total Broadband"を開始した。"BT Total Broadband"では、"BT Fusion"に加えて、2006年秋にサービス開始予定の次世代TVサービス"BT Vision"などのブロードバンドサービスが利用可能となる。また新型のBT Hub(【図表2】)が提供されている。

⑤(脚注2)

BTは2001年に携帯電話事業(現O2; 当時はCellnet)を切り離しており、BT MobileはMVNOとしてVodafoneの携帯電話網を利用している。

BT HubはBluetoothと無線LANの両方に対応しており、家庭やオフィス内のワイヤレスブロードバンドルーターとして、10台までの機器を接続することができる。ユーザー宅内のBT HubにはBT Broadband回線（最大8Mb）が接続され、BT Fusion端末、次世代TV、携帯ゲーム機、ホームモニター端末、IP 電話機、PCなどにより構築されるHome Networkのコアとして位置づけられている（【図表1】参照）。

なお、Fusion端末にはFMC固有の番号ではなく携帯電話番号が付与されている。他社の携帯電話ユーザーがFusionに加入する場合には、端末をFusion対応に変える必要があるが、モバイルナンバーポータビリティにより、これまで使用していた携帯電話の番号を引き続き利用することも可能である。

1 - 2 Fusion端末に新機種投入

Fusion端末としては、サービス開始当初はFusion専用のMotorola V560しか提供されていなかったが、2006年1月から人気機種であるMotorola製RAZR V3Bが利用可能となった。2006年内にはWi-Fi（無線LAN）対応の端末も導入される予定である。

【図表2】 Fusion端末とBT Hub

< RAZR V3B >



< V560 >



< BT Hub* >



（*BT Total Broadband” で提供されている新型の BT Hub）

（出所： BT ホームページ）

1 - 3 新しい料金プランの導入

BT Fusionはパッケージとして提供されている。BT Hubはパッケージに含まれており、新規加入時に無料で提供されている（最低契約期間は12ヵ月）。端末については、V560については無料で提供されているが、RAZR V3Bの場合は、加入するプ

ンにより有料となる場合がある^④(脚注1)。

Fusion料金プランには、BT Fusion 100、BT Fusion 200およびBT Fusion 400の3種類が用意されており、それぞれ無料通話分数が100分、200分、400分含まれている。2006年2月からは新たなプランとして、「固定回線プラン(Landline Rate Plan)」と「夜間週末プラン(Evening and Weekend Plan)」が開始された。

固定回線プランは標準的なプランであり、BT Hub経由で英国国内の固定電話へかける場合には固定電話の料金(BT Together Option 1に相当)が適用され、昼間は1分あたり3ペンス(約6.3円^⑤(換算率))、夜間・週末は1通話60分まで5.5ペンス(約11.6円)である。

夜間週末プランは、固定回線プランに月額3ポンド(約630円)を追加することにより、夜間・週末のBT Hub経由国内固定電話宛の通話がかけ放題となる。昼間は固定回線プランと同様、1分あたり3ペンスである。

どの料金プランにおいても、BT Hub経由の国内固定電話以外への通話とBT Mobile 網経由の通話にはBT Mobileの料金が適用される。またFusion端末にかける場合にもBT Mobileの通話料が発信者側に課金される。

なお、BT Fusionサービスの加入にあたっては、BT Broadbandの加入契約^⑥(脚注2)



^④(脚注1)

RAZRの場合、BT Fusion 100プランの12ヵ月契約への加入時のみ、初期費用として19.99ポンド(約4,230円)が必要となる。また主端末のほかに5台まで追加可能である。追加端末には固有の携帯電話番号が付与されるが、主端末と同一の請求書で請求され、主端末の無料分数をシェアする。追加端末の価格は、V560は無料、RAZRは1台あたり49ポンド(約10,360円)。月額料金は端末の機種に関わらず、1台あたり9.99ポンド(約2,110円)。

^⑤(換算率)

1ポンド = 211.48円(2006年7月3日東京市場TTMレート)

^⑥(脚注2)

BT Total Broadband(2006年6月21日提供開始)には3つのオプションがあり、オプションにより月間通信量が異なる(2GB、6GB、40GB)。いずれのオプションもダウンロード速度は最大8Mb/sで、夜間・週末のIP電話(国内通話)が無料、屋外での公衆無線LAN(BT Openzone)利用が月間250分まで無料である。料金は、Option 1: 18ヵ月契約、最初の3ヵ月は月額9.95ポンド(約2,100円) それ以降は月額17.99ポンド(約3,800円) Option 2: 12ヵ月契約、最初の3ヵ月は月額14.99ポンド(約3,170円) それ以降は月額22.99ポンド(約4,860円) BT Hubが無料、Option 3: 12ヵ月契約、最初の3ヶ月間は月額22.99ポンド、それ以降は月額26.99ポンド(約5,700円) BT HubとBT Hub対応電話機が無料となっている。

に加えてBTの加入者回線契約^㉞(脚注)が前提条件となる。

現在提供されているBT Fusionの住宅用料金は【図表3】のとおりである。

【図表3】 BT Fusionの住宅用ユーザー向け料金

プラン (月間無料通話分数(1))		月額料金(2)		備考
		18 カ月契約	12 カ月契約	
BT Fusion 100 (100分)	固定回線 プラン (3)	無料 (最初の6カ月間) £ 20 (7カ月目以降)	£ 22	<ul style="list-style-type: none"> ・ BT Mobile 経由の音声通話：100分まで無料 ・ Quick-call (5)：1000分まで無料 ・ 18 カ月契約は6カ月間月額基本料無料(2006年12月31日まで)(2) ・ 端末保険：最初の3カ月間割引(6)
	夜間週末 プラン (4)	無料 (最初の6カ月間) £ 23 (7カ月目以降)		
BT Fusion 200 (200分)	固定回線 プラン (3)	無料+月間100テキストメッセージまで無料 (最初の6カ月間) £ 27 (7カ月目以降)	£ 30	
	夜間週末 プラン (4)	無料+月間100テキストメッセージまで無料 (最初の6カ月間) £ 30 (7カ月目以降)		
BT Fusion 400 (400分)	固定回線 プラン (3)	無料+月間100テキストメッセージまで無料 (最初の6カ月間) £ 42 (7カ月目以降)	£ 46	<ul style="list-style-type: none"> ・ BT Mobile 経由発信の音声通話(固定・携帯電話宛、時間帯区分なし)：400分まで無料 ・ Quick-call (5)：1000分まで無料 ・ 18 カ月契約は6カ月間月額基本料および月間100テキストメッセージまで無料(2006年12月31日まで)(2) ・ Fusion 端末：2種類とも無料 ・ 端末保険：最初の3カ月間割引(6)
	夜間週末 プラン (4)	無料+月間100テキストメッセージまで無料 (最初の6カ月間) £ 45 (7カ月目以降)		

< 表注 >

- (1) 無料分数にはBT Mobile網経由音声通話が含まれる。
- (2) 2006年12月31日までの期間限定で提供されているBT Fusionへの新規加入者対象プロモーション料金。



㉞ (脚注)

BTの加入者回線契約は、BT Together Option 1 (標準)：月額11ポンド(約2,330円)、Option 2：月額16.5ポンド(約3,490円)、Option 3：月額25.5ポンド(約5,390円)の3種類。

(3) 固定回線プランではBT Hub経由国内固定電話(01および02で始まる電話番号)宛の通話はBT固定電話料金を適用。昼間：3ペンス/分、夜間・週末：1通話1時間まで5.5ペンス(夜間は午後6時～午前6時の時間帯)

(4) 夜間週末プランではBT Hub経由国内固定電話宛の通話は昼間：3ペンス/分、夜間週末：無料

(5) BT Fusionの全ての料金プランに1アカウントあたり月間1000分の「Quick-call」が含まれる。Quick callとは、事前に指定した国内固定電話番号(01または02で始まる番号)への2分以内の通話が無料となる。

(6) 月額5.99ポンドのところ、最初の3ヵ月間、2.99ポンドで提供中。

< Fusion端末発信の通話料 >

通話の種類	BT Home Hub 経由の通話		BT Mobile 網 経由の通話
	昼間	夜間週末	時間帯区分なし
英国国内固定電話宛	3ペンス/分	固定回線プラン：1時間まで5.5ペンス 夜間週末プラン：無料	10ペンス/分
BT Mobile 携帯電話宛	10ペンス/分	10ペンス/分	10ペンス/分
他社携帯電話宛	30ペンス/分	30ペンス/分	30ペンス/分
テキストメッセージ	10ペンス/通	10ペンス/通	10ペンス/通
画像メッセージ	未提供	未提供	30ペンス/分
ボイスメール	10ペンス/分	10ペンス/分	10ペンス/分
国際通話	15ペンス/分～	15ペンス/分～	15ペンス/分～

(BT ホームページの情報に基づきKDDI総研作成)

1 - 4 各種キャンペーンの実施

BTでは当初、あまり積極的なマーケティングは実施していなかった。2006年に入り、新機種を導入や新たな料金プランの開始時期に合わせて、次のように各種の期間限定キャンペーンを実施している。

2006年1月10日のMotorola RAZR V3Bの提供開始に合わせて、BT Fusion 100プランの契約者にV3B端末2台を6ヵ月間月額15ポンド(約3,170円)で提供。また1月31日までの新規契約者にBT Broadband料金(月額17.99ポンド：約3,800円)を3ヵ月間無料で提供(18ヵ月契約が条件)。

2月1日の新料金プラン提供開始に合わせて、2月1日から4月末までの新規加入者に、BT Broadband料金を3ヵ月間無料で提供(18ヵ月契約が条件)。また契約期間に応じて、料金プランの月額料金を値引き(例：Fusion 100プランの固定回線プランは、18ヵ月契約で最初の12ヵ月間を月額9.99ポンド(約2,110円)、12ヵ月契約では最初の6ヵ月間を月額9.99ポンドで提供。)

5月1日から7月4日までの期間、新規の18ヵ月契約に限り、全ての料金プランの月額基本料を6ヵ月間無料で提供。Fusion 200および400の料金プランでは、6ヵ月間の基本料無料に加えて月間100通のメッセージが無料。
さらに、2006年12月31日までプロモーション期間を延長。

1 - 5 中小企業向けサービスの開始

BT Fusionは、まず住宅用ユーザーを対象に開始されたが、2006年2月から中小企業向けにもサービスを開始した。ターゲットユーザーは従業員数10人以下程度の小規模事業所である。住宅用ユーザー向けサービスの場合と同様、Fusion端末からBT Hubを介した固定電話への通話には固定網料金が適用されるため、携帯電話網に接続する場合に比べ通話料が大幅に削減されるというのが最大のセールスポイントである。

中小企業向けBT Fusionの料金は、月額基本料が12.5ポンド(約2,640円)、通話料金は従量制だが、BT Hub経由の通話は1時間までは定額でかけられるのが特徴である。国内固定電話宛は1時間まで10ペンス(約21.1円)、BT Mobile携帯電話宛は1時間まで15ペンス(約31.7円)、他社携帯電話宛は1時間まで25ペンス(約52.8円)となっている(【図表4】参照)。

BTではサービス提供開始時のキャンペーンとして、3月31日までの新規契約に対し、3ヵ月間、月額基本料を通常の12.5ポンドを6.5ポンド(約1,375円)で提供し、また50分の無料通話を提供した(24ヵ月契約が条件)。また、5月25日から6月12日までの期間限定キャンペーンでは、新規加入時にBTオンラインショップ「Business Store」で利用できる50ポンド(約10,570円)のクーポンを提供している。

【図表4】BT Fusionの中小企業ユーザー向け料金

月額基本料	12.5 ポンド (24 ヶ月契約)		
Fusion 端末	無料		
Bt Hub	無料(追加 Hub は 1 台あたり 102.12 ポンド)		
通話料	BT Mobile モード	BT Hub モード	BT Hub モード の最大料金 (60分まで)
英国国内固定電話宛	8 ペンス/分	3.5 ペンス/分	10 ペンス
BT Mobile 携帯電話宛	6 ペンス/分	6 ペンス/分	15 ペンス
他社携帯電話宛	25 ペンス/分	10 ペンス/分	25 ペンス
ボイスメール検索	8 ペンス/分	3.5 ペンス/分	(BT ホームページの情報に 基づき KDDI 総研作成)
SMS	10.21 ペンス/ 通	10.21 ペンス/ 通	
MMS	21 ペンス/通	21 ペンス/通	
MMS ビデオ	42 ペンス/通	42 ペンス/通	
WAP	7 ペンス/分	未提供	
データ (GPRS/3G)	2 ポンド/Mb	未提供	

2 「BT Fusion」の今後の展開計画

2 - 1 Wi-Fi対応Fusion端末の導入

現在、Fusion端末とBT Hub間はBluetoothにより無線接続されているが、BTは今後、Wi-Fi対応端末を導入する。

2006年2月にバルセロナで開催された3GSM World Congressにおいて、BTとMotorolaの両社はWi-Fi/GSMのデュアルモード端末 Motorola A610 をBT Fusionの端末として投入すると発表した。提供時期は2006年第3四半期を予定している。

Wi-Fi対応端末が導入されると、今後は家庭やオフィス内に設置されたBT Hubだけでなく、外出先では「BT Openzone」のホットスポットにおいてもFusion端末が利用できるようになる。特にビジネスでの利用が期待されている。

BT Openzoneは、BTが提供する公衆無線LANサービスである。BT Openzoneのユーザーは、英国では8,400カ所以上、国外では3万カ所以上のホットスポットで無線LANが利用できるようになっている。

【図表5】 Motorola A610 の外観



(出所：Motorolaホームページ)

2 - 2 大企業向けFMCサービスの提供計画

BTではこれまでBT Fusionで一般ユーザーおよび中小企業ユーザー向けにFMCサービスを提供してきた経験を生かし、次は国内外の大企業および欧州規模で事業を展開する多国籍企業ユーザーを対象にFMCサービスを提供する計画である。

2006年5月にBTが発表した新しいソリューションは"Enterprise FMC"プロジェクトと名付けられ、大企業ユーザーの生産性向上と通信コストの削減を実現するFMCサービスと位置づけられている。

この大企業向けソリューションでは、固定網へのインターフェースとしてWi-Fiを利用し、Wi-Fi/GSMデュアルモード端末が使われる。ユーザー企業の社員は、1台のデュアルモード端末と1つの電話番号により、オフィスや家庭、BT Openzoneのホットスポットなど、どこにいても、また何時でも、固定網と携帯電話網の両方の通話を最も経済的な方法で送受信することができ、オフィスにいるときと同等な機能を利用することが可能となる。

ベンダーとしてはBT FusionにおいてもパートナーであるAlcatel社と協力体制を組む。Alcatelはメインインテグレーターとして、設計、他社の技術も含めたインテグレーション、試行まで幅広く担当する。Alcatelは、BT FusionのほかにもBT CommunicatorやBTのNGN移行プログラムである21st Century Network (21CN)でも機器・ソリューションのサプライヤーとなっている。

BTでは5月以降2006年後半にかけてソリューションの開発を行う予定であり、2007年初めには企業ユーザーを対象にパイロットサービスの開始を見込んでいる。同社はまた、複数の端末メーカーとの間で、各種のデュアルモード端末のテストも並行して行っていく予定である。

2 - 3 モバイルデータサービスの充実

2006年4月、BTはBT Fusionにおけるモバイルデータ関連サービスの充実に向けて、相次いで米国企業とのパートナーシップを発表した。

BTとVeriSignの両社が"CTIA Wireless 2006"で行った発表によると、VeriSignはBT Fusion用にモバイルコンテンツサービスを提供することになった。このサービスにはモバイルメディアポータル、カスタマイズされた端末クライアントなどが含まれ、BT Fusionで導入予定のWi-Fi対応端末で利用できる。JAVAゲームや映像のダウンロード、着信メロディーなど多様な新しいコンテンツが利用できるようになる。

またfastmobile社とはモバイルメッセージ関連サービスの提供で協力していくことで合意した。4月以降、fastmobileの次世代モバイルメッセージングサービス「fmx」技術をBTのコアネットワーク上で展開し、トライアルを行っていく予定であり、IM(インスタントメッセージング)、MMS(マルチメディアメッセージングサービス)、モバイルメールなどが簡単に利用できるようになるという。

3 BTをめぐる最近の注目される話題

3 - 1 FMCサービスに利用可能な周波数免許の獲得

2006年5月2日、BTはFMCサービスにも利用可能とされる無線周波数免許を獲得した。これは1781.7-1785MHzおよび1876.7-1880MHzの対になった周波数帯（合わせて6.6MHz）において、低出力で運用される技術ニュートラルベースの免許である。代表的な利用例としてはオフィスやキャンパスにおける構内GSM網などが上げられている。

英国の規制機関Ofcomが、競売の結果、BTを含む12社^④（脚注）に免許を付与したもので、免許料総額は約380万ポンド（約8億円）である。BTのほか、Cable & WirelessなどもFMCサービスへの利用を検討していると報じられており、今後の動向が注目される。

3 - 2 「ワイヤレスシティ」の構築へ向けて

21CNの一環として、BTは12の大都市に大規模なWi-Fi ネットワーク設備を設置する「Wireless City」計画を進めている。その第1フェーズとして、2006年5月に、Cardiff、Westminster、Birmingham、Edinburgh、Leeds、Liverpoolの合計6つの大都市との間でWireless Cityに関する契約を結んだ。すでに、Cardiffにおいては多数のBT Openzoneホットスポットの設置を開始しており、Westminsterではワイヤレスブロードバンドネットワークが構築済みで、現在拡張中である。

Wireless City計画は、米国Intelや他のワイヤレスソリューション分野におけるパートナー企業、地方自治体などとの協力体制で進められている。対象となる都市では大規模なワイヤレスブロードバンドネットワークを構築し、家庭、オフィス、BT Openzoneをはじめとする多数のホットスポットなどから、このネットワークにアクセスできるようにするほか、高速モバイルアクセスも可能となる。今後導入予定のWi-Fi対応のBT Fusion端末や大企業向けFMCサービスで利用される端末なども含めた多様な端末が利用可能となる。BTではWi-FiだけでなくWiMAXなどの新技術の試行も視野に入れているという。



④（脚注）

免許を獲得した12社は、British Telecommunications PLC、Cable & Wireless UK (England)、COLT Mobile Telecommunications Ltd、Cyberpress Ltd、FMS Solutions Ltd、Mapesbury Communications Ltd、O2 (UK) Ltd、Opal Telecom Ltd、PLDT (UK) Ltd、Shyam Telecom UK Ltd、Spring Mobil AB、Teleware PLC である。

3 - 3 伝統的な通話サービスから新サービスへのシフトが顕著に

BTグループの2005/6年度業績が2006年5月18日に発表された^④(出典)。これによると、通年(2005年4月1日～2006年3月31日)の売上高は195億1,400万ポンド(約4兆1,300億円)で、対前年比6パーセント増となった(移動網着信接続料の値下げ、および買収による影響を除くと3%増)。

中でも目立つのは、BTが「ニューウェーブビジネス」と呼ぶ、ITサービス、ブロードバンドおよびモビリティ事業(BT Fusionが含まれる)の売上が大幅に増加したことで、対前年比38%増の62億8,200万ポンド(約1兆3,300億円)となり、グループ全体の約3分の1を占めるに至っている。一方で既存の固定網事業の売上は5%減少しており、伝統的な通話サービスから新サービスへのシフトがますます顕著になっていることがわかる。

なお、BTのブロードバンドユーザー数は2006年3月末で約790万となり、前年より58%の増加となった。このうち小売部門であるBT Retailのブロードバンドユーザー数は約258万である^⑤(脚注)。

英国のブロードバンド市場全体も急成長を遂げており、Telecom Markets誌(2006.5.2)によれば、2005年12月末の英国のDSL加入者数は約724万と前年同時期の約415万に比べ75%近い増加となっている。またケーブル利用者も加えた英国ブロードバンド加入者総数は約989万、世帯普及率は38.6%となっている。

📖 執筆者コメント

世界の通信事業者の中でもいち早く電話網のオールIP化を発表したBTは、NGN移行計画である21st Century Network(21CN)を推進している。BT Fusionは、21CNの一環として、ブロードバンドのコミュニケーション分野におけるサービスポートフォリオのひとつとなっており、上記に述べてきたように、着々とサービスが展開されつつある。

だがBT Fusionの本格的普及に向けては、まだ解決すべき課題が多く残されているようである。例えば、BT Fusionで利用できる端末の種類はまだ限定されており、2種類しかない。また、BT Fusionの加入者はBTの加入者回線とBT Broadbandサービスに加入していなければならないが、現在はBTの加入者回線・ブロードバンドの料



^④(出典)

[BTの報道発表資料\("Preliminary results – Year to March 31, 2006": 2006.5.18\)](#)

^⑤(脚注)

[BT Retailの市場シェアは2005年9月末時点で約24%である\(Ofcom資料\)](#)

金請求と、BT Mobile から請求されるBT Fusionの料金請求は一本化されていない。通話料についても、BT Hub経由の発信通話は携帯電話に比べれば安い、固定電話料金と同額であり、IP電話と比較するとそれほど安いとは言えない。またBT Fusionへの着信には携帯電話料金が課金される。さらに、BT Broadbandサービスは、音楽やゲームのダウンロードを大量に行うヘビーユーザーにとっては、他社のブロードバンドサービスに比べ割高になっているのが現状である。端末ラインナップの充実、請求書の一本化や料金の見直しなど、ユーザーの利便性向上と通信コストの更なる低減が普及のカギとなると思われる。

しかし、BT FusionサービスへのWi-Fi/GSM携帯電話の2006年内の導入も決まり、端末の種類が増えてくることは確実である。中小企業向けにもBT Fusionサービスが開始され、また大企業向けFMCサービスも計画されており、ビジネス向けサービスにおける進展が見込まれている。また、今後はVodafoneやC&WなどBT以外の事業者によるFMCサービス開始も見込まれ、競争が始まってくると予想される。先行事例である英国市場におけるFMCサービスの今後の動向に引き続き注目していく必要があるだろう。

【執筆者プロフィール】

氏 名：服部 まや（はっとり まや）
 所 属：KDDI総研 制度・政策調査室
 専 門：欧米・アジアを中心とした諸外国のモバイル市場に関する調査研究
 最近の主な研究テーマ/レポート：

欧米の公衆無線LANサービスの動向

欧米におけるMVNOの動向

東南アジアの通信事業環境調査

ローミング事業に関する調査研究

タイ携帯電話事業者の最新動向（KDDI総研R&A 2004年10月号）

タイ携帯電話市場の最近の動き（KDDI総研R&A 2006年2月号）

Email : xma-hattori@kddi.com

電話 : 03-6716-1141

📖 出典・参考文献

- ・ BT の ホーム ページ (<http://www.bt.com>、 <http://www.btfusionorder.bt.com>、
<http://www.btbusinessshop.com>等)
- ・ Ofcomのホームページ (<http://www.ofcom.org.uk/>)
- ・ Motorolaのホームページ (<http://www.motorola.com/>)
- ・ Alcatelのホームページ (<http://www.alcatel.com/>)
- ・ Telecom Markets誌 (2005.12.13、2006.2.21、2006.5.2ほか)
- ・ その他各種報道資料